

# 新妻 昭夫



- ①『水俣病の科学』（西村肇・岡本達明著、日本評論社・3300円）
- ②『病気はなぜ、あるのか』（R・M・ネシー&G・C・ウィリアムズ著、長谷川眞理子・長谷川寿一・青木千里訳、新曜社・4200円）
- ③『地球人記』（小松義夫著、福音館書店・5000円）

ものがなぜあるのかを理解するための「進化医学」という新分野を提案する。生物学を学ばずに医学部に入ってしまった「マニユアル医者」予備軍の必読書。

狂牛病の不安をぬぐえないまま年を越えつつある。EUの警告を無視した担当官庁の説明責任を問わねばならない。①の著者たちは水俣病が発生して間もなくから、それぞれの立場で関わりがあった。四十年をかけて説明責任をはたそうとする姿勢に頭がさがる。

②は、治療法を確立するためではなく、病気という

戦争のニュースを見ながら思う。どんな死体も無惨だろうし、どんな人の死も無念だろうと。③に収録された二千百五十点の写真を見て思う。地球上のどの場所のどの人たちも、日々ひたむきに暮らしているのだと。写真の子どもたちの笑顔が、いつまでも変わらないうように願う。

（恵泉女学園大教授）